

議長（高木将君） 次，25番生田目久夫君の発言を許します。

〔25番 生田目久夫君登壇〕

25番（生田目久夫君） ただいま，議長からお許しがございましたが，事前通告をいたしておきました常陸太田駅周辺地区のまちづくりについてご質問を申し上げます。

本題に入る前に申し上げますが，私ども議員が住民の代表として，市行政全般について質問することは，議員固有の権能であって，住民の信託にこたえて，執行者の所信や疑問について質問を得ることは，議員としての使命を果たす職責であると信じております。

議会は一般的に批判と監視の府と言われておりますように，議員は質問を通じて，市政の事務事業について政治責任を明確にするとともに，よって公正・公平な効率的な行政確保を図るための一般質問は，その意義と使命はまことに大きいと言わざるを得ません。

したがって，議会本来の権能を考慮するとき，私ども議員は，個々の資質や能力を高めるため，日常活動を通して調査・研究を重ね，住民の負託にこたえるよう努力しなければならぬと思っております。

申すまでもなく，地方公共団体の首長と議員は，おのおのの相関関係の信頼の中で，真摯にしっかりと支え合っていかなければならぬと思っておりますが，こうした考えの中で，常陸太田駅周辺まちづくりについて述べてみたいと思っております。

去る5月17日から18日の両日，常陸太田駅周辺地区まちづくり説明会が，駅前山下町集会所において，午後7時より開催されました。市側から招集された地権者や住民，役員等で，会場はほとんどいっぱい埋め尽くされました。私が，時間内ではございましたが，出席しましたときには，もう既に座る席もないというような状態でありまして，住民の方々がどこからかいすとテーブルを運んできてくださったので，そこに座ることができたわけでありまして。

一般の山下町の住民の方々は，この2日間の説明会の模様がいち早く伝わり，大変な関心事となったわけでありまして。この模様等をぜひ議会での質問台に立って再現してほしい，そして，市長なり，副市長なりのお考えをただしてほしい。こういうことによって，私どもはこの駅前に対する認識をさらに深めるんだから，ぜひお願いしたいというようなことを受けまして，私はここの壇に立ったわけでありまして。

そこで，この説明会の実情であります。市側から総勢8名の職員関係が上席に列席されましたが，説明会については，主催者側からは何のあいさつもなく，もちろん職員の自己紹介もなく，全く無軌道きわまりない雑然とした中で，市側の一方的な説明がありましたが，一部の方々から，これだけの職員を出席させて，時間外手当等をどうするのか，市財政の逼迫する中で，こんなずさんな運営でいいのかというような声がたくさん出ました。この件について，まず，責任あるご説明をお願いをいたしたいと思っております。

説明会においては，道路計画等の同一平面図が会場の両サイドに掲示されただけで，参加された地区住民からは，こんな重要案件の説明が，たった2枚のパネル版だけでいいのかと，よく見えないし，したがって，理解に苦しむ。何とか2人に1枚でもいいから，詳

細な地図を配布して説明をお願いしたいと、こういう願いもございまして、会場からは、何と不親切な説明会じゃないかというような不満の声もあったわけであります。

約数十分後ようやくその資料が配布されました。これまでの経緯や幹線道路の計画、さらには交通広場の計画、説明の中で、現地測量、基本設計のためのJRとの協議で、駅舎の移転、県との協議では、県道交差点の、さらには最大の関心事の県道の線形の変更、さらには住民等の安全・安心を確保するための重要な歩道橋の撤去、こういう大問題が、何だ、これは降ってわいたような話じゃないかと言われるような話の中で、難問題が続々と出たわけでありますが、これを聞いた住民の皆さん方は、大変な議論が続出しまして、会場いっぱいの参加者の方から、にわかに騒然となり、罵声と怒声が飛び交い、収拾は一時はつかない状態となり、ひいては役員の実任、辞退の問題まで発展をして、一方的な、半ば強引とまで叫ばれた市側の説明で納得が得られず、流れ解散となってしまいました。翌18日も、約25名の関係者で前日同様、役員もおられました。同じく何の発言もなく、同じような状況の中で、依然収拾はつかずに解散をしてしまいました。

地元説明会が、このように混乱をし、収拾がつかないような中においても、簡単にこの大改修事業が実現するのかどうか、大久保市長に責任あるお考えをお伺いしたいと思いません。

その後3日目の5月21日の議員の全員協議会に議員に配付されました常陸太田駅周辺地区の施設の計画、こういう資料が配付されました。この資料で見ましたときに、前回の住民に対するまちづくりの説明会の……、全然この表題が変わっておりました。まず、これはどうして変えたのかということをお伺いしたいというようなことであります。どうぞお願いをいたします。

また、平成12年度に作成した常陸太田駅周辺地区整備計画を、日立電鉄線が平成17年3月に全面廃止になったのを受けて、平成18年1月に地元の地権者、関係行政機関に、駅周辺地区整備計画検討協議会を組織し、協議をし、この施設計画を具体化すべく進めてきたとのことですが、私ども議員もこの計画を初めて知ったのですが、さきの山下町集会所での説明会では、こうした経緯の説明は全くなく、既に決定ありきのような中で、単なる説明会だった。なぜこのような形式的な、地元住民をばかにしたような、だますような説明会をやったのかと、住民は怒りをあらわにしています。

大久保市長は、過日、茨城新聞で次世代のメッセージの中で、市民の皆さんと行政が一緒になって、まちづくりを考え、行動し、つくっていく、市民協働のまちづくりに取り組んでいくんだと述べられ、新聞記事を見ましたが、これほどまでに崇高な考えをお持ちだったら、今回計画している常陸太田市駅周辺まちづくりを見直していただきたいと思いませんが、いかがでございますか。市長のお考えをお聞かせをいただきたい。

そして、道路計画平面図を見ますと、都市計画道路3.6.76号と、ちょっとこれは図面を見ないと、おわかりにならないのでございますが、旧日立電鉄線の踏切の地点より、道路を大きく拡幅をしまして、右折をし、日立電鉄の駅舎や駐車場のほとんどを縦断し、

都市計画道路3・6・73号線でありますから、一方的な73号線と十字形に交差点を改良するようだが、なぜこのように一方的な法線を計画したのか伺いたい。

現在のように、3・6・76号線はT字形の交差点で、歩道橋もあり、以来今日まで何らと申してはちょっと言い過ぎかもしれませんが、不便や事故等も交通量の割にはほとんどなく、長年私どもは何とかそれなりに利便性を感じておったわけでございます。

交通広場や駐車場があれだけ整備してあれば、念入りに建てられたあの由緒ある太田駅舎の存続と、駅前の交差点は、現状のままでも、現在計画進行中の鯨ヶ丘を東西に貫通するトンネル、県道日立笠間線と申しますが、現在はこのトンネルの部分は県道木崎稲木線と申すそうであります。

天神町から木崎の坂をおりまして、ほとんどその突き当たった部分から、高台を縦断をしまして、東のバイパスに抜けるというようなことございまして、この道路は既に申しますが、前の渡辺市長の時代に計画がされまして、この高台の方々が大変抵抗があったわけであります。こうした不況の中で、行政を初め有識者の方が、高台の灯は消してはならんとおっしゃっていながら、下にこういうトンネルを通過させたら、我々はその灯が消えていくんじゃないかと、そういう大変な異論も続出したわけではありますが、駅前の交通緩和のためならば、これもやむを得ないんじゃないかというようなお考えのもとに、このトンネル建設計画が進められたのだと、私は記憶しておるわけであります。

こうしたトンネルが開通すれば、計画通路3・6・79号線から3・6・76号線への車の流れ、当然、今申し上げたような形になって、駅前は混雑するところには、どなたも危険を冒し、しかも遠回りしては通過しないであろうという問題から、当然、半減するであろうと思うのでございます。こういうことについては、いかがなものか。

さらに、駅舎の現在の向きを180度西側に向け、しかも線路の向こう側にそれを建て、3・5・104号線といいますか、新しい計画、裏道をつくり、迂回をしているような、なぜこのような余計な土地を、予算を投入してまで考えているのかという、これを質問してくれと、こういうことございまして。

また、常陸太田市第5次総合計画前期基本計画を立てておきながら、今回の大規模改修工事については、地元住民や地権者になぜ早くから示さなかったのか。一方的に一部地権者や執行部が隠密に計画して、測量、設計し、これを強行しようとして、形式的な地元説明会でごまかし、さらに都市計画決定の日程まで組んで、最終的都市計画決定の告示を10月下旬に予定しているという、これまで周到な計画決定をし、どういうお考えであるのか、こういうことであります。

常陸太田市の将来を占うような大事業だと思うが、予算の背景を考えれば、すべて市民の血税で賄われているのにもかかわらず、今回の事業計画では、JRの駅舎等の移転については、過去においては日本国有鉄道、現在においては民間の一企業に、16億円という税金である、莫大な金額を投入することに、疑問を我々は呈しますとおっしゃっております。

この問題は、過去に、既に同士の皆さんもおわかりかもしれませんが、JR線が、七、八年前だと思いますが、100円の純益を上げるために、300円から三百数十円の経費がかかると、これでは国鉄としても何ともやっていけないので廃線したいと、こういうことになった事態があったわけでありまして。私どもも、駅と駅舎の間に挟まれて、その恩恵は大変なありがたさでありました。そういう観点から、同じ二、三件隣の当時健在な梶山静六先生にお願いをいたしまして、何とか常陸太田市の玄関口である駅がなくなるようでは困るでしょう、ぜひともお力添えをいただいて、そのかわり私どもは駅の利用を懸命に考えていきますから、どうぞお願いしたいということをお願いをした経緯が、おぼろに覚えております。そういうことによって、現在まで何とかこのJR駅は存続をしておるわけでありまして。

そういうところに、こうした大金をぶち込む。最初の計画では、JRはもう赤字だから、それには及びませんというような形であったそうですが、ぜひ市として、こういう形でつくるから協力してほしいということになったんだそうなのですが、そうした大量の皆さんの税金をかけて、それで果たしてまた安全運行が開始されたとしても、何カ月か何年後には、何としてもこれ以上は私どもは継続できないとなった場合、その責任はどなたが負うのかという問題であります。

そういうことよりも、むしろ駅の存続はともに皆さんで支援する、そして何とかその前に、地域の商店街まちづくりを考えてもらいたいと、そういう重要なお金として使ってもらってはいかがであろうかというような考えのごく駅近辺の方の申すことであります。女性の皆様方に、ここ1週間ぐらい、ああ、もったいない、よく考えてから、そういう計画を立ててほしいですねというような声が、たくさん私の耳にも入ってくるわけでありまして。

ところで、振り返りますと、当時、第1回の建設計画を再考するとき、駅の存続には、市を挙げて最大限の努力を払う、駅を中心として正面に向かって商店街を配置し、景観等も配慮しながら、駅前にふさわしい再活性化を図るために、駅や駅前商店街を利用するお客様には、何としても不自由を感じさせないような最高のサービスに心がけることによって、利用客数の増大を図る、そういうことが市玄関口の活性化の基本になるんじゃないかと、こういう計画の云々があったことを、今思い起こしておるわけでありまして。

そこで、今回の開発計画でプロジェクト作成を7回行ったと言っておりますが、コンサルタント会社が、この7回のうちに一体何社かかわったのか。これまでの経緯を説明をお願いいたします。

今回のように、半ば変則的と言われております建設計画では、無計画、むだ、無意味だというような大変の声があります。さらには日立電鉄駅舎や駐車場跡地も、行政主導により、日立関係の大資本家に加担するかのよう手法ではないか。予算の執行には、おれが権限と見えてくるようだねと、この地域の住民には、ますますそんな誤解と申すか、あるいは、正論と申すか、そういう声がまさしく高まっておることは、皆さんもお聞きになっておるところと思います。

地元住民がおっしゃるように、今回の大開発、記憶に定かではありませんが、最初には90億円、第2回目は70億円、その70億円の最近になって23億円と、こういう建設計画は、どのような算出のもとに、ご決定なされたのか、こういうこともあわせて聞いていただきたいと、こういうことでございまして、質問に立ったわけであります。

どうぞ、この辺について、市長のほうから責任あるご答弁をお願いを申し上げまして、そのご答弁をいただいた後に、再度ご質問を申し上げます。どうもありがとうございます。

議長（高木将君） 答弁を求めます。市長。

〔市長 大久保太一君登壇〕

市長（大久保太一君） 駅周辺の整備に関しまして、生田目議員のご質問にお答えをさせていただきます。

まず最初に、駅周辺を今のままで、いつまでもほっておいていいのかということに関して、駅周辺の活性化を図る何らかの手だてが必要であるということに、考え方に関しては、議員の考え方と私の考え方に相違はございません。そのために、駅周辺の整備を進める必要があると判断をしたところでございます。

ご案内のように、あそこの駅前におきましては、国道349と293が変則交差をしております。先ほど議員からは大きな交通事故等は発生していないというご発言もございましたが、18年度におきましては、十五、六件の物損事故を含めた、人身事故も含めた事故が起きている状況下でございます。

今、西側から参りますと、高台からおりてきたところで1カ所信号があり、また駅に入る手前で1カ所信号があり、293、日立方面に向かう場所にも信号がありまして、3カ所信号がついております。それを何とか交差点、きちっとした直角交差にはなかなか地形的になりませんが、それを直角交差に近い形に直して、信号も3カ所を2カ所に変えて、スムーズな流れにしたいというのが、第1点であります。

ちなみに、今、特に国道293に関しましては、1日当たりの交通量は往復で、1万六千数百台の車が今交通をしているわけでありまして。そんな点を考えまして、道路の直角交差への修正が必要だろうと考えたところであります。

あわせまして、ただいまの駅あるいは線路につきましては、駐車場にしているところ、駅北側ですが、自転車の駐輪場にしているところ、西側とにつきましては、線路で区切られている状況にありまして、東側と西側がなかなか利用がしにくい状況下でございます。

これらにつきましては、前々からお話が、市民の方あるいは議員からも出ておりましたけれども、何とか西側と東側をもっと利用しやすいような形がとれないだろうか、そんな要望も強く出ていたわけでありまして。

また、JRの存続に関しましては、ただいま現在は廃止をすとか、そういう話は一切ございませんけれども、将来に向けて、もっとJRを利用しやすいような駅前広場の整備等も必要だと、そういうふうを考えまして、この駅周辺についての整備をすべきであると

いうふうに決心をしたところでございます。

前に計画がありまして、区画整理等も含めて、七十数億円をかけて整備をするというような計画も一たん持ち上がったのも承知をいたしておりますが、日立電鉄線が廃線になったと、こういうことがありまして、それらを見直しをして、今回の計画をまとめたわけでございます。駅を若干南に持っていきまして、そのことによって、東西がもう少し有機的に結びつくような、完全ではないんですが、そういう形をとるべきだろうと考えたわけがあります。

さらに、木崎トンネルの工事も来年度から入るわけですが、これができれば、交通量は緩和されると、そのことは緩和の方向に行くのは事実だと思います。しかし、今、宮の郷工業団地ですとか、あるいは県が進めている常陸那珂港、あるいは日立港、そういうところの物流の活性化ということが前提にあるわけございまして、思ったほど、交通量について、直近のところは減るとは思いますが、将来に向けて整備をしておく必要がある、そういうふうに考えた次第でございます。

なお、地元への説明会について、議員ご指摘のように、親切さに欠けている、そういうことに関しましては、地域の皆さんに大変なご心配をおかけしたわけでありまして、改めまして今週の14日に私も出まして、再度説明会を開催をさせていただきたいと考えております。

その余の議員の質問趣旨等につきまして具体的なことに関しましては、建設部長からご答弁を申し上げます。

議長（高木将君） 建設部長。

〔建設部長 川又和彦君登壇〕

建設部長（川又和彦君） それでは、常陸太田駅周辺地区まちづくり計画の具体的な案についてご答弁申し上げます。

初めに、説明会に混乱があったという点でございますけれども、進行におきまして若干課題はございましたが、最終的には論点の整理をさせていただき、見直しをお約束して終了したところでございます。その次回の説明会については、先ほど市長のほうからご答弁があったとおりでございます。

次に、歩道橋の取り壊しについてでございます。まちづくりに当たり、施設の整備は安心・安全の確保を図るとともに、高齢化に備える観点から、国が制定してございます、通称、交通バリアフリー法に基づきまして、階段など段差のないバリアフリー化を図りたく、ご理解を賜りたいと思います。

次に、前回の説明会から時間がたっていることについてでございます。これまでの経過についてご報告申し上げます。昨年、18年度5月の地元説明会終了後、7月から11月にかけて、現況測量を行い、10月からは設計業務に着手し、12月からはJR、国、県及び公安委員会など、関係機関との協議を始めまして、本年4月下旬におおむねそれらの関係者の了解を得たところでございます。この間の内容につきましては、地元に対し具

体的説明を行うだけの内容に乏しいことから、結果として1年が過ぎることになってしまいました。ご容赦いただきたいと存じます。

次に、駅舎の向きについてでございます。駅は、ご案内のとおり、市の玄関口でありますとともに、中心市街地活性化に欠くことのできない交流人口を増大させるための重要な施設でございますことから、議員ご指摘のとおり、市街地に向けて駅舎を整備すべきものと考えてございます。

過日開催いたしました地元説明会で配布した図面では、その意図が十分伝わらず、地元住民の皆様方におかれましては、不要なご心配をかけてしまいましたことから、地元説明会の中で見直しをお約束し、今週の14日でございますが、再度地元説明会を開催することとして、市の説明をご説明申し上げたいと存じます。

次に、事業費が過大ではないかとの指摘についてでございます。全体事業費23億円のうち、市負担分16億円の財源の内訳についてでございます。現在、事業費として想定してございます16億円のうち、国からの交付金が5.5億円、起債、これは合併特例債でございますが、6.8億円、単独費が3.7億円と試算してございます。また、駅前広場の用地につきましては、市有地を活用するなど工夫も施しているものでございます。ご理解を賜りたいと存じます。

次に、コンサルが何社かかわっていたかということでございます。コンサルにつきましては、これまで2社にお願いしてございます。現地調査や設計委託に要する費用を支出してまいりましたものの、これらの調査成果の積み重ねが、結果として、今回の事業計画策定に十分反映されておりますことから、支出につきましては、ご理解を賜りたいと存じます。

次に、過去の計画から事業費が減額になっていることについてでございます。これまでまちづくりの話し合いの中でご提示申し上げた計画案に基づく全体事業費は、機械的に積算したものでございまして、予算の裏づけを有するものではございません旨、ご理解を賜りたいと思います。

次に、残業手当についてでございます。当日の説明会は夜間ということもあり、必要な人員を確保するために、やむなく6名が出席させていただきました。残業代につきましては、適正に管理してまいりたいと思います。

駅前整備と木崎トンネルの件についてでございますけれども、この件につきましては、国及び県におきましても、特段のご配慮をいただき、予算の確保もほぼ確実な状況となるなど、事業化が目前となっております。地方都市におけます厳しい経済社会情勢の中にあつて、この地域間競争に生き残るためには、駅前整備やトンネル整備などの社会資本の形成は欠くことのできない事業となっております。

今後、駅前につきましては、都市計画決定に向けた法定の手續に着手したく、議会におかれましても、特段のご協力を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げる次第でございます。

以上でございます。

議長（高木将君） 25番生田目久夫君。

〔25番 生田目久夫君登壇〕

25番（生田目久夫君） 市長を初め、いろいろと今後の計画についてご説明をいただきました。ありがとうございました。

今までの説明の中で、いろいろ考えてまいりますと、まず、私は、今建設部長が申されましたが、コンサルタント、このコンサルタントの結局問題でございます。7回ある中で、2社がかかわったということではありますが、大体これは皆さんもご承知だと思いますが、コンサルタントというのは、非常にアイデア、デザイン、それらの政策に対して、どのくらい経費を安くうまくできるかというような、今どこの会社へ行きましても、競ってそういうことを考えておるわけであります。

こういう合併後の殊に大きな駅前広場という問題については、当然、地元の方がおっしゃっているように、7回や6回で済むわけではないんです。普通の工事建設であれば、市のほうで発注するのは、これこれこういうもので、こういうものでやっていただきたい。そのたびに、これは80%だ、90%、93%だというふうなことで、いろいろ談合とか汚職の問題が、そこに発展をしているわけではありますが、このコンサルタントにつきましては、1つの計画地内で、そういう方々が、少なくとも3社以上の方にお願いをして、その地区の地形から、その住民の考え方から、商店街のすべての問題を掌握した上で、こういう設計図をつくっていただく。それを皆さん方、議会、すべてに示し、そのうちからどれがいいんであろうかというものを選んでもらって、建設をしていくということが、当然進むべき大きな問題であります。私が今さら釈迦に説法ではありませんが、申すまでもなく、議員の皆さんもよくご承知であろうと思います。

そういう問題が、今部長がおっしゃったように、たった7回で、たった2社のコンサルタントの方のその意見によって、こういう問題に発展した。これ自体が、こういう思いがけない、大きな住民との問題点に到達しているわけであります。

もう少し、部長としても、会合の説明会の席上で、駄弁で私は申し上げましたが、私は議会に参加させていただきましてより、その鉄則ではありますが、部長は県から派遣された。次の都市計画の課長も県から派遣されたすばらしいエキスパートの人間であります。しかしながら、この方を私はどうのではありません。この市内から市役所に奉仕し、すばらしい技術・能力を持っている職員がたくさんおります。私は、その方々に、たとえどういう関係が県とあっても、そういう方にご負担を与えて、責任を持ってやっていただくと、こういうことが、一番地域社会の方々とのコミュニティ、そういうものもよく話し合いもついて、すばらしい建設計画が生まれるんじゃないかと、こういうふうにも思っております。

よく私もそういう議員さん方と話しますが、ともに太田の地に生まれ、ともにお世話になって、そうして、こうやってきたんだから、私どもはこの地で骨になるんだと、そういうために一生懸命奉仕したい。この太田市には、そういう職員がたくさんおるわけであり

ます。たくさんというより、むしろ全体と言ってもいいんじゃないか。これだけは、私は申し上げたいと思います。そういう中では、私はこのすばらしい市から選出されておる職員を十分に活用し、研究、勉強、研修をなさって、こういう面での活躍を期待するものがあります。

また、この工事については、いろんな問題から続けていきたいという話でございますが、今申し上げましたように、根源になるものがいかに立派な構想であるとおっしゃっても、地元住民がこのように、大体合わせて、両方2日間で、100人以上、大体地権者の大半の方がいらっやと、私は記憶をしておるわけですが、そういう方々が、ほとんどの方々が、こうした問題、知らず知らずに役員はどういう方だかわからない方が、その地域、班内から出て行って、こういう重要な問題点に携わり、その方々のご意見によって、こういうふうな事業が進められてきたと、こういう問題も十分にさらに掘り下げて、ご検討なさって、あくまでも地域住民が、ああ、よかった、これでいいんだ、これでいい、これで楽しく住めるんだというような考え方をお持ちいただけるような、やっぱり行政であり、工事進行であろうというように、私は考えるわけがあります。

40分という範囲内ですから、間もなく11分ですから、あと幾らもありませんが、もう一つ、部長のほうから質問されたものを聞いてこいというわけですが、常陸太田駅周辺まちづくりの説明会というテーマで、2日間の説明会があったわけです。21日の議会の全員協議会におきまして配付されたものの表題は、常陸太田駅周辺地区施設計画についてと、こういうテーマであります。しかも、その下のほうを見ますと、建設部長という名前で、括弧して、おおむねまとまったので報告をすると、こういう括弧書きがしてあったのをいただいたわけです。

その次に、市報の……。間もなく時間がいっぱいなので、間に合わなければ、後の機会にまた申し上げますが、市報のお知らせ版に、19日に公聴会がありますということは、21日の全員協議会において、その配付された裏側に、3として、都市計画決定の日程、予定、策定協議会は5月7日にあった。私どもはクエスチョンであります。地元説明会が5月17日、18日だった。全員協議会、5月21日であり、この日でありましたが、公聴会が6月19日だ、この案の縦覧が8月下旬である。その次に、市都市計画審議会というのは、議会でも4名出るわけでありまして、その協議会にかけまして、10月4日には、県都市計画審議会というものに提出をされ、都市計画決定告示というものが、10月下旬にあると、こういうふうに書かれておったわけです。

このお知らせ版を見ますときに、最初の見出しには、日立都市計画道路の変更に関する公聴会と、こういうことが書いてある。私どもはよくわからなかったです。21日の議会の全員協議会の席上で、公聴会は6月19日にあります。ばかの一つ覚えですから、ちゃんと19日だろうと思っております。

ところが、この中を、こういう見出しのものですから、気にしないでいました。この中を見ていきましたらば、なお、19日までに公述書を提出してくれと。その公述書がない

と、これはだめですよと、公述書が出ない場合は、19日の公聴会にご破算ですよと、ありませんよと、こういうことになっておるわけです。

私も地域の熱心な方に、先生、19日とおっしゃっているけれども、これをよくごらんになってくださいと。6月4日から12日の火曜日まで、土曜日曜を除くと。その間に公述書が提出されなければ、先ほど申し上げましたように、公聴会は取りやめですよと、こういうことがちゃんと書いてあるわけです。よく見ないと、これはわからない。なぜ我々のような者に、日立都市計画道路の、確かに名称はそのとおりなんです。しかしながら、地区民に対して、常陸太田駅周辺地区まちづくりに対してというテーマの資料が届けられておったんですから、これは全員協議会の資料に対しましても、やはり常陸太田周辺まちづくりというテーマで出していただきたい。なおかつ、お知らせ版の中のこのテーマも、常陸太田市駅周辺地区まちづくりの件について、こういうテーマで出していただけるような優しい配慮があってもいいんじゃないかと、こういうふうに私は考えるものでありますし、住民の近くの方々も、大変こういう問題で、こんな理解に苦しむようなお知らせ版はあるか、もっとせわしく駆け回っている我々のために、今私が申し上げたようなテーマでもって書いていただいたらどうだと、こういうことが申されております。ここにいらっしゃる方の中もおっしゃっている方があります。

いろいろまだまだ話したいことはたくさんあります。このコンペの問題にしましても、いろんな3社以上の方をお願いをして、お互いにその特有の技能・技術、アイデア、思いつきとかいろいろありますが、そういうものを出し合って、競ってもらって、その3つなり4つのものを地区の住民の説明会でも何でも持ってきていただいて、それをこの会社はこれですよ、これはこうですよ、皆さん、こういう中で、どれをお選びになりますかと、こういう説明会であってほしいと私は思っております。

時間もありませんが、このことについてもう少し山ほどあります。説明も、帰って地区民の方に、何、さっぱり私どもの意向とするところを聞いてもらえなかったなと、こういうことになるとは思いますが、たった40分で、あと4分になってしまいました。申しわけありませんが、この辺で、大変いろんなご説明をいただきましたが、これを存続と、存続するということがいかなものか。私は最後まで建設計画は大いに実施してもらいたい。

そして、前にも申し上げましたが、今部長もおっしゃった、駅を中心に、正面にして、そういう両サイドに、いろんな問題からも格好のいいものをつくると、そういう建設計画の中に、この人たちが入っておるわけでありまして。そういう方々が、いきなりこういう問題はこうなんだよと言われたというから、さあたまりません。何言っているんだ、我々はこのために新しい住居も店舗もつくろうとしたけれども、つくったものに対して、この市の工事に対する負担がより増すであろうと。だから、雨露もこのままのいいで、どうやらやっていける程度で、その改革を待とうと、こういう考え方であったわけでありまして。ですから、びっくりするのも当然であります。

この辺を十分にお酌み取りをいただいて、今後の建設計画のために、十分にご検討と善

処策をお願いをいたしまして、私の質問を終わりにしたいと思います。どうもありがとうございました。

議長（高木将君） 答弁を求めます。建設部長。

〔建設部長 川又和彦君登壇〕

建設部長（川又和彦君） それでは、再度のご質問にお答え申し上げます。

コンサルタントについてでございます。コンサルは基本的には事務方の手足として設計等の提案をする会社でございます。今回の駅前におけるような整備計画案の作成に当たりましては、当然でございますけれども、地元の皆様とつくってまいるものであると考えてございまして、平成12年度よりも、このような協議を重ねてまいり、今回に至ったところでございますので、よろしくご理解を賜りたいと存じます。

なお、今後のコンサル等の活用につきましては、ご提案がありました、例えばデザインのコンペ的なものについても、それは検討してまいりたいと存じます。

おおむね案がまとまった、との趣旨がどうかということかと思えますけれども、過日開催されました全員協議会においてご提示申し上げました計画案は、再度繰り返しになりまじけれども、平成18年5月の地元説明会で了解を得ました土地利用計画案をもとに、関係機関との協議を踏まえて作成したものでございまして、この案の取り扱いにつきましては、今後地元説明会や公聴会などでいただきましたご意見を参考に、都市計画案として作成してまいるというもので、おおむね案がまとまったという表現をさせていただきました。

なお、まちづくりは、今後も皆様とともに鋭意継続してまいる、これに変わりはありません。今回の都市計画の変更と申しますのは、法定の手續として、都市計画施設としての国道の2路線と、道路の附属施設となつてございます駅前広場を計画決定しようということで、施設のほうを先行して進めてまいりたいということで、ご理解を賜えればと思います。まちづくりにつきましては、今後とも鋭意進めてまいります。